

**令和4年度
南大沢スマートシティ
第1回協議会**

2022年8月8日
(10:30-12:00)

#	議 題
1	協議会の開催概要
2	先端技術の実装化に向けて
3	ICTインフラの整備に向けて
4	認知度向上に向けた取組
5	R5年度以降の新たな運営体制づくり
6	実施計画（Ver2）への意見（パブコメ）
7	その他取組との連携

1. 協議会の開催概要 ①メンバー構成

※メンバーは各委員からの推薦等を基に今後も柔軟に追加・変更していく

協議会・部会のメンバー構成

協議会構成員

協議会構成員以外団体

南大沢スマートシティ協議会

座長：清水教授（東京都立大学）

モビリティ部会

清水教授（東京都立大学）
アドバイザー：小根山教授（東京都立大学）

京王電鉄株式会社 MaaS関連部門
(バス事業者)

まちの賑わい部会

岡村准教授（東京都立大学）

三井不動産株式会社

情報・その他部会

石川特別先導教授（東京都立大学）
アドバイザー：相原教授（東京都立大学）

今後必要に応じて設置

部会長

PL

構成員

電動シェアサイクル事業：
OpenStreet株式会社
自動運転バス関連：
Boldly株式会社

商業サービス関連：
株式会社ベスプラ

通信サービス他：
NTTドコモ株式会社
KDDI株式会社
ソフトバンク株式会社
東日本電信電話株式会社
株式会社JTOWER
富士通Japan株式会社

通信サービス他：
NTTドコモ株式会社
KDDI株式会社

商業施設等：
株式会社多摩ニュータウン開発センター
京王電鉄株式会社
株式会社イトーヨーカ堂
「元気な街」南大沢協力の会

商業・業務施設等：
株式会社多摩ニュータウン開発センター
三井不動産株式会社 サテライトオフィス
シェアオフィス事業部門
「元気な街」南大沢協力の会

独立行政法人都市再生機構
東京都住宅供給公社

独立行政法人都市再生機構
東京都住宅供給公社

ローカル5G他：
東京都立大学

東京都
(都市整備局：市街地整備部、総務部)

東京都
(都市整備局：市街地整備部、総務部)

東京都
(都市整備局：市街地整備部、総務部、
デジタルサービス局)

八王子市
(都市計画部)

八王子市
(都市計画部、産業振興部)

東京都
(環境局：地球環境エネルギー部)

八王子市
(都市戦略部、産業振興部)

南大沢スマートシティ 実施計画Ver 1

令和2年度

令和3年度

深度化

- 協議会・部会の議論を基に、計画を深度化
 - ・地域の課題やニーズ、将来動向を踏まえ、南大沢スマートシティのビジョンを設定
 - ・ビジョンを実現するため、施策の領域ごとに基本方針を設定（ICTインフラ整備、新たな運営体制）
- 実証実験の実施・効果検証
 - ・まちの回遊性や賑わいの創出を図るため、電動のシェアサイクル含む複数の移動手段を最適に組み合わせたMaaS等の実証実験を行い、その効果として、新たな来街の需要が促されたと検証

南大沢スマートシティ 実施計画Ver 2

令和4年度

深度化・
取りまとめ

（1）Ver 2 に位置付けられた先端技術の“実装化”

- ◎過年度実証実験のフォローアップ
- ◎R 4 年度実証実験（3本予定）の実施と効果測定
- ◎当地区で新たに実証実験を検討している事業者の実施

（3）認知度向上に向けた対策

- ◎スマートシティの各取組の参加を増やすための広報

（2）ICTインフラの整備

- ◎必要なオープンデータやデータプラットフォームの構築
- ◎都立大ローカル5Gの利活用の拡大
他事業との連携

（4）R 5 年度以降の新たな運営体制づくり

- ◎継続的に先端技術を取り入れていく体制づくり
- ◎産学公による適切な役割分担をもとに必要な事業スキームを構築

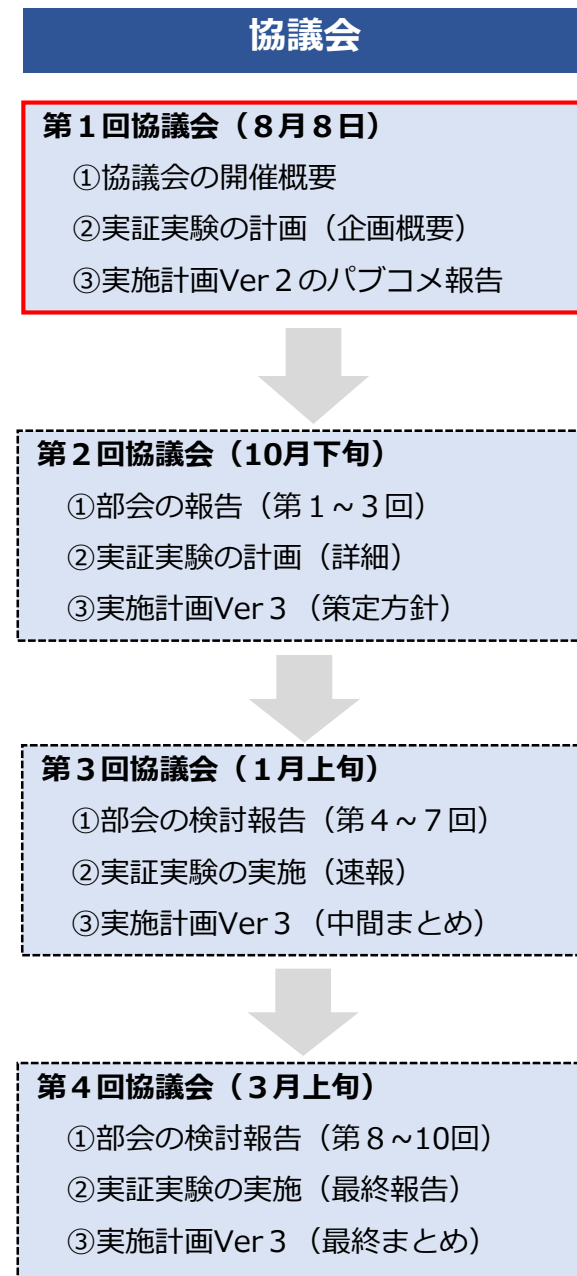
南大沢スマートシティ 実施計画Ver 3

（5）実施計画（Ver 2）パブコメ意見

1. 協議会の開催概要 ③スケジュール

R 4 協議会のスケジュール（予定）

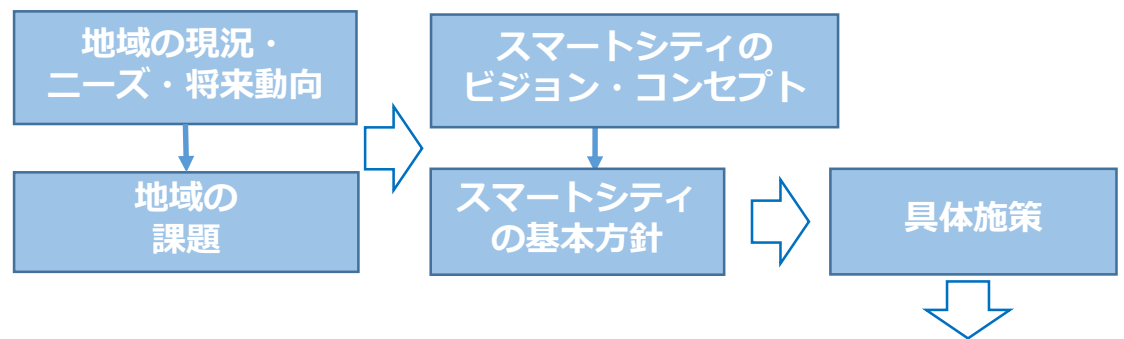
主たる業務項目		2022年					2023年		
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 協議会 ・部会	ア. 協議会	第1回		第2回			第3回		第4回
	イ. 部会		第1回 ～第3回		第4回 ～第7回			第8回 ～第10回	
	ウ. 広報		協議会ホームページの管理・更新等の情報発信						リーフレット作成
(2) 実証 実験	ア. 計画	計画書作成	関係者調整・実証準備						
	イ. 実施			実証実験実施					
	ウ. 効果検証						効果検証		
(3) 実施 計画	ア. 改定					改定案の作成			公表
(4) その他	ア. 次年度に向けた準備					社会実装に向けた検討・準備			



2. 先端技術の実装化に向けて ①これまでの検討と実証実験

これまでの検討と実証実験

令和
2
年度

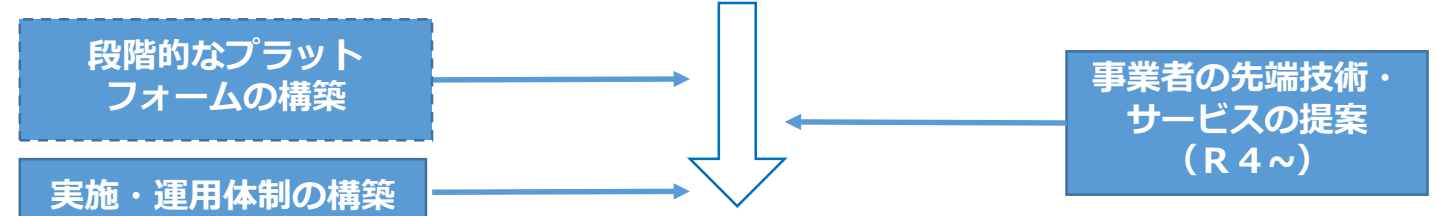


※具体的な検討内容は「参考資料」参照

令和
3
年度

実証実験			
年度	モビリティ	まちの賑わい	情報・その他
目的	<ul style="list-style-type: none"> ラストワンマイルの確保 エコで多様な移動ニーズへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> まち全体の情報発信 効率的な買物・物流サービスの提供 地域資源の最大限活用 	<ul style="list-style-type: none"> 多様なサービスを実現するオープンデータの活用 サービス価値を高めるデータ連携
R 2	<ul style="list-style-type: none"> ○自動運転車いす ○自動運搬ロボット 	○アバターロボット	-
R 3	<ul style="list-style-type: none"> ○M a a S ○電動シェアサイクル 	○デジタルスタンプラリー	-
R 4	○電動キックボードシェアリング	○デジタルサイネージ	○3Dデジタルマップ

令和
4
年度









令和
5
年度~

社会実装の
順次開始 (R 5 ~)

2. 先端技術の実装化に向けて ② R 2・3 実証実験

過年度の実証実験のフォローアップ

	実験	現状	課題	関連する事業者・管理者意向	今後の対応（予定）
R 2	自動運転車椅子 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模施設（空港・病院等）での活用 	<ul style="list-style-type: none"> 屋外での活用（路面状況・天候） 公道での許可 需要の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者需要が少ない サービスを導入する事業者の意向による 	<ul style="list-style-type: none"> 活用施設（公共・福祉施設）の拡大・調整 走行可能ルートを検討
	自動運搬ロボット 	<ul style="list-style-type: none"> 商業・業務施設での活用 	<ul style="list-style-type: none"> 公道走行の許可 屋外での活用（路面状況・天候） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者、事業者導入のためらい サービスを導入する事業者の意向による 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な利用シーンでの活用（店舗内、業務施設、団地内・外等）
	アバターロボット 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な施設での活用（商業・観光施設） 	<ul style="list-style-type: none"> 通信環境の安定性 屋外での活用（路面状況・天候） 	<ul style="list-style-type: none"> 生産台数は増加予定 屋外利用も検討 サービスを導入する事業者の意向による 	<ul style="list-style-type: none"> 商業施設の導入調整 他の施設（公共・業務施設・大学等）での活用
R 3	Maas（一部実装化） 	<ul style="list-style-type: none"> 全国の多様な地域で実施（観光・医療等） 	<ul style="list-style-type: none"> 利便性・操作性の向上 システムの高度化（検索・決済） 広報PRの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 更なる利便性向上に向けたシステム改修を検討中 地域の課題解決に資するサービス内容を検討 	<ul style="list-style-type: none"> システムの操作性向上・高度化（検索・決済等） 他の施設（商業・公園等） 交通サービス（キックボード等）との連携
	電動シェアサイクル（実装化） 	<ul style="list-style-type: none"> 都心部を中心に実施、多摩地区は駅周辺で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 車両や駐輪スペースの偏り・不足 車両の充電対応 需要の創出（利用需要の分析） 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して実施予定 一定程度の利用需要や十分な設置場所があればポート増設の可能性あり 	<ul style="list-style-type: none"> ポートの見直し・拡大 他の交通サービスとの連携・分担（バス・キックボード等）
	デジタルスタンプラリー 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術の活用は先進的 	<ul style="list-style-type: none"> 他イベントとの連携 広報PRの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 自社のアプリで類似サービスを提供 人的リソースとコスト確保で可能性あり 	<ul style="list-style-type: none"> 他のイベントとの連携 広報の充実・拡大

2. 先端技術の実装化に向けて ③ R4 実証事業（電動キックボード）



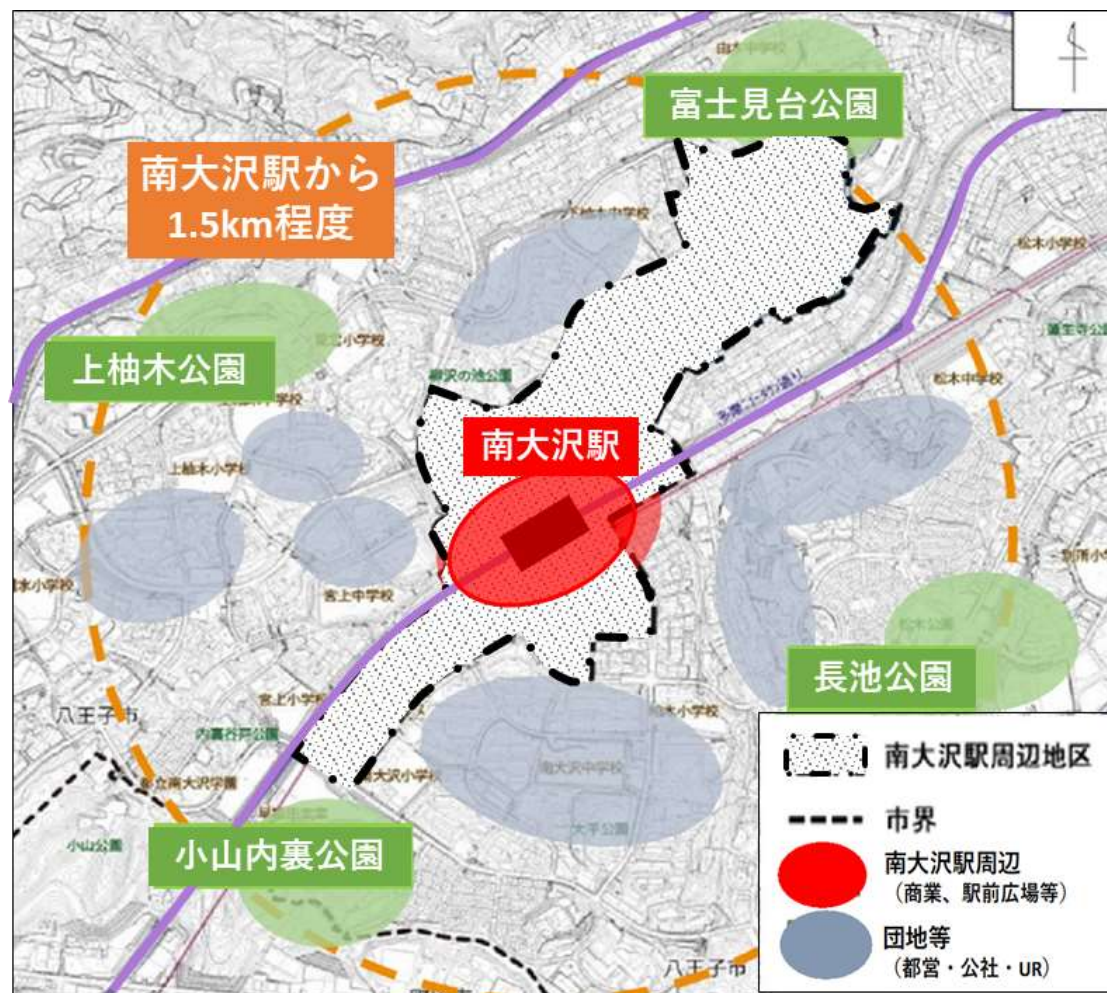
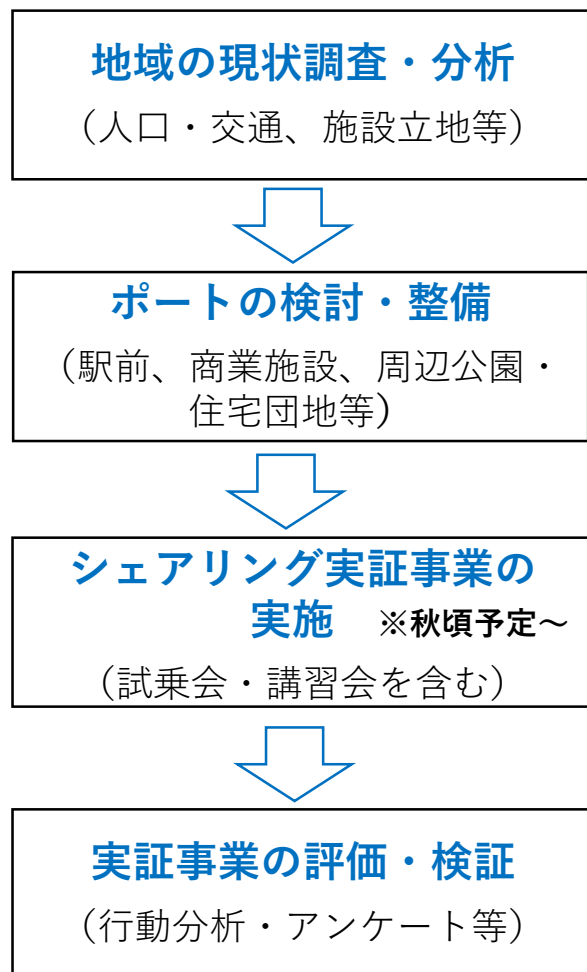
R4 年度実証事業の実施と効果測定（電動キックボード）

▶事業概要（案）

移動の円滑化やラストワンマイル交通の確保、丘陵地における高低差移動の負担軽減を図るため、電動キックボードシェアリング事業を推進し、社会実装につなげる

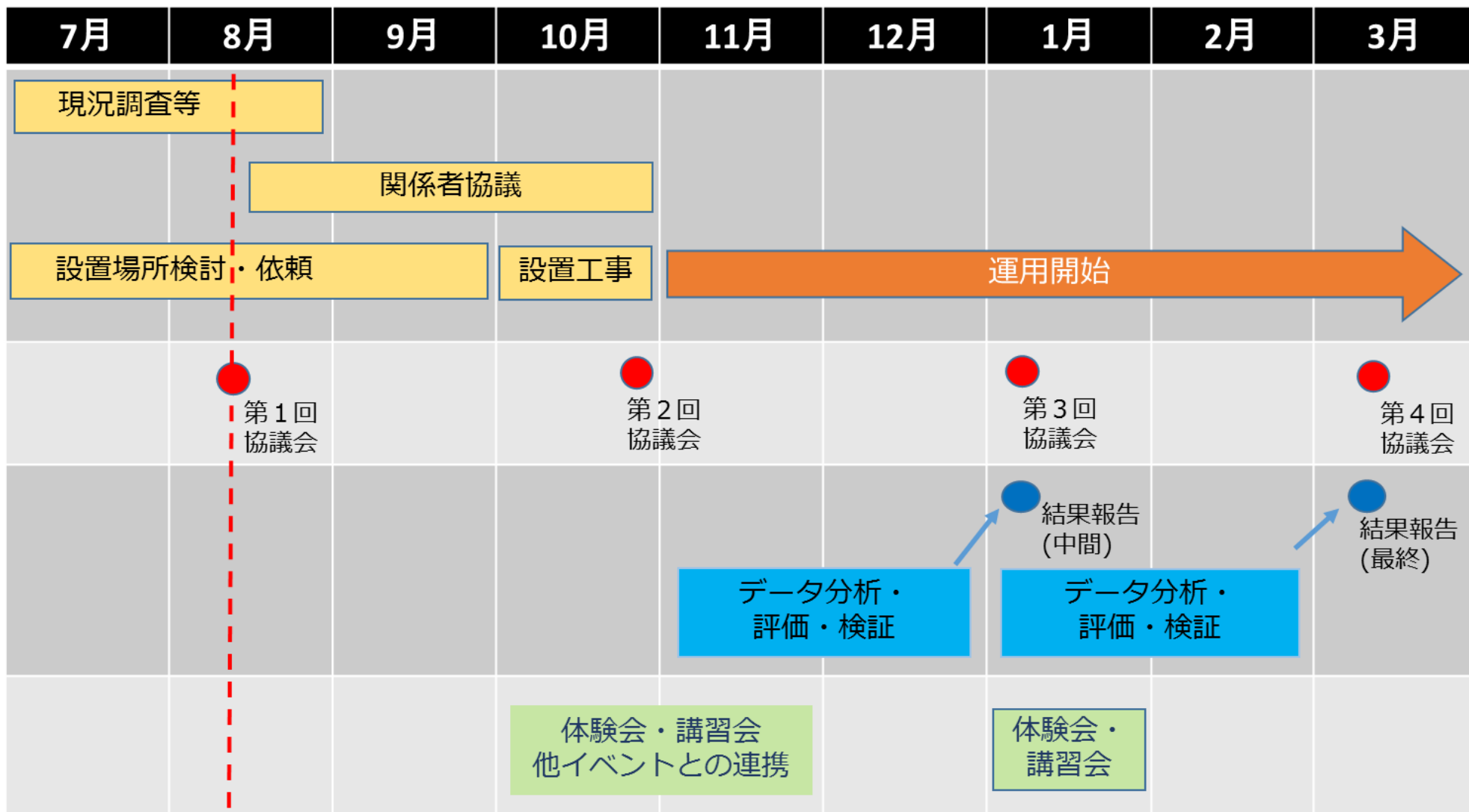
▶事業範囲（予定）

南大沢駅から主に1.5kmを対象に、各施設管理者と調整し、数十台のポートを整備、電動キックボードシェアリング実証事業を実施

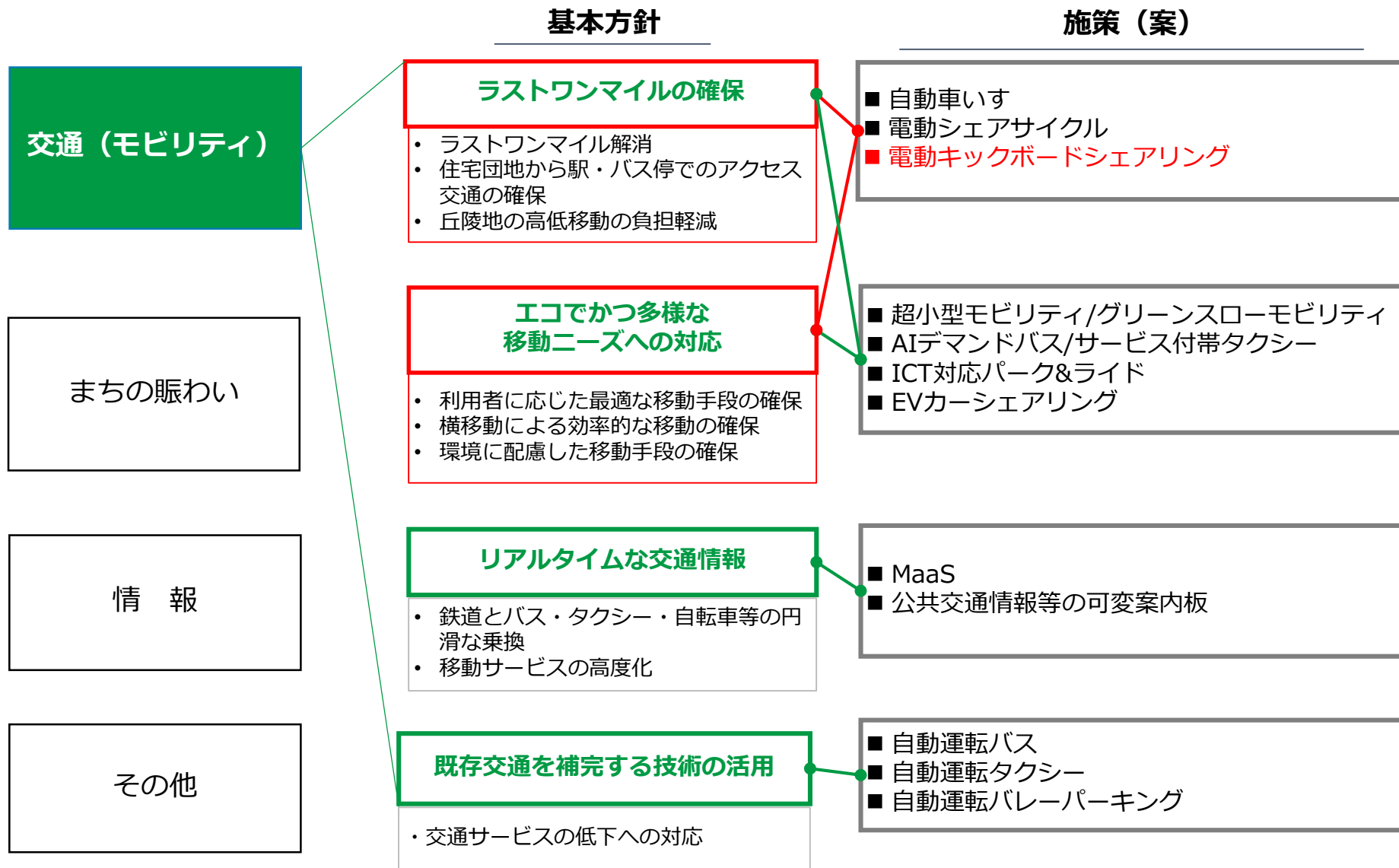


事業スケジュール（予定）

※今後の関係者との調整やサービスの社会状況の変化等により、予定変更可能性あり



(参考) モビリティに関する基本方針・施策



※本内容は、現時点における技術的に可能性のある施策を網羅したものであり、今後南大沢エリアとしての実施可否・優先順位を十分に議論したうえで、具体的な実施内容・時期の検討を行う。

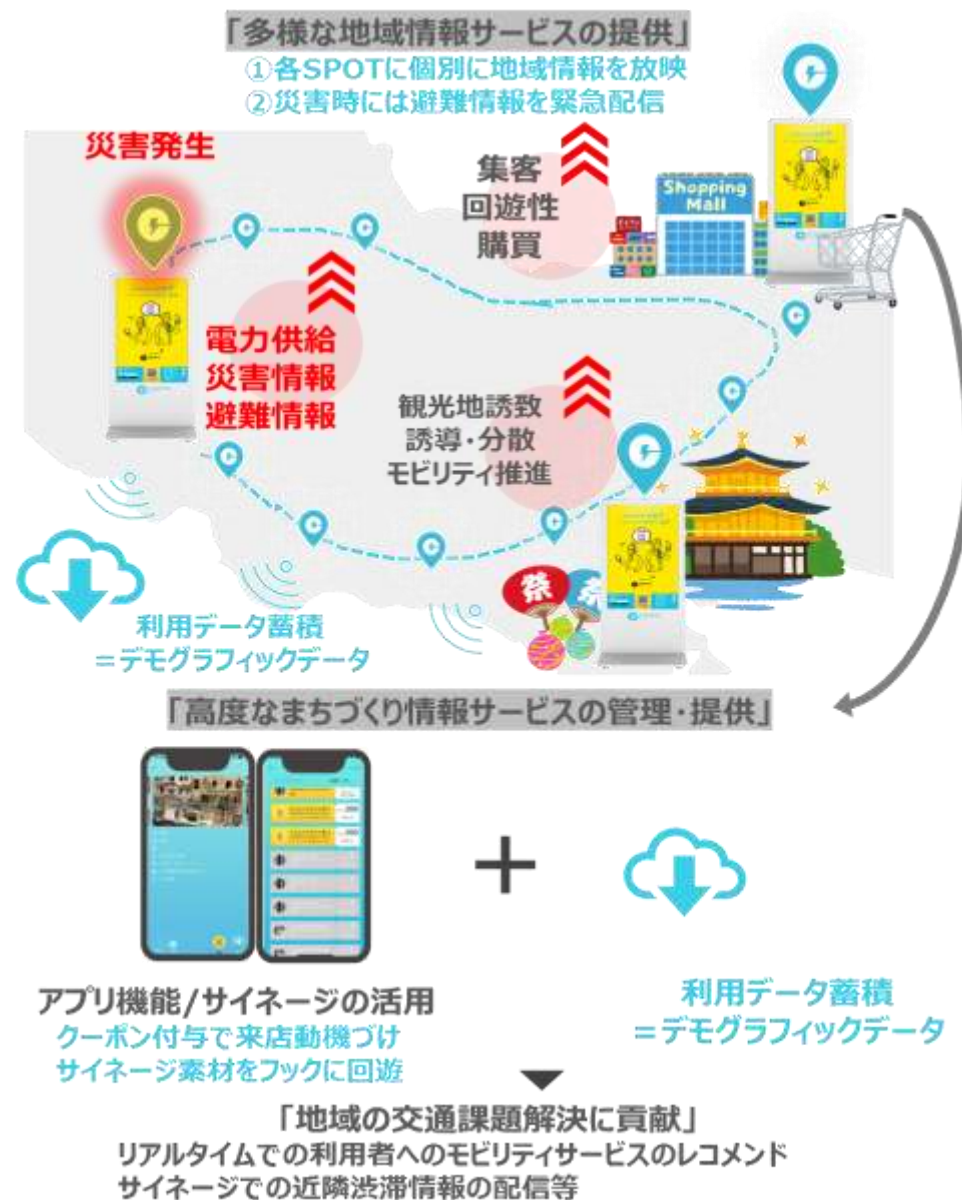
(実験企画A) サイネージ等による情報提供（予定）

※本企画は現時点での予定であり、今後の関係者との調整において一部変更の可能性もあり

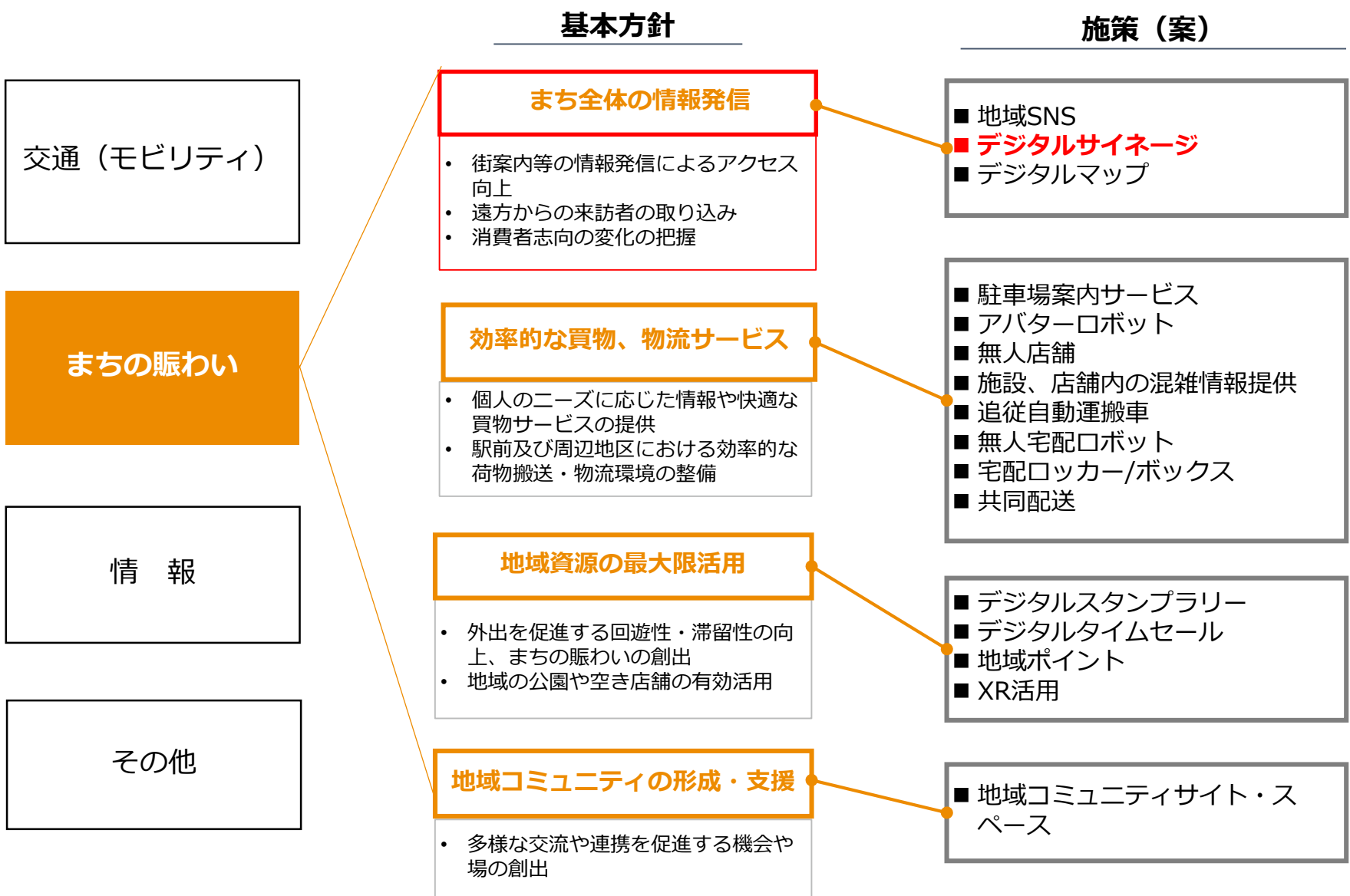
実証の概要

- 本実証ではCharge SPOTを活用して①地域情報の放送と②災害時の避難情報の緊急配信の実証実験を行うことで、「まちの賑わい」と「防災」領域で効果を創出
 - ✓各SPOTに個別に地域情報を放映し、集客・回遊性・購買を向上。また観光地融資誘導やモビリティ利用促進も企図
 - ✓災害時は避難・災害情報を提供。さらにSPOTから電力供給を実施

多様な地域情報サービスの提供



(参考) まちの賑わいに関する基本方針・施策



※本内容は、現時点における技術的に可能性のある施策を網羅したものであり、今後南大沢エリアとしての実施可否・優先順位を十分に議論したうえで、具体的な実施内容・時期の検討を行う。

（実験企画B）3Dマップ活用による案内サービス（予定）

※本企画は現時点での予定であり、今後の関係者との調整において一部変更の可能性もあり

実証の概要

高度な街づくり情報サービスの管理・提供

- 3Dデジタルマップを構築し安心安全な歩行者ネットワークの構築の為に、移動者の目的と移動者の特性に合わせた移動ルート案内、公共交通・設備の状況を同プラットフォームで可視化し・確認できるサービスの価値を実証



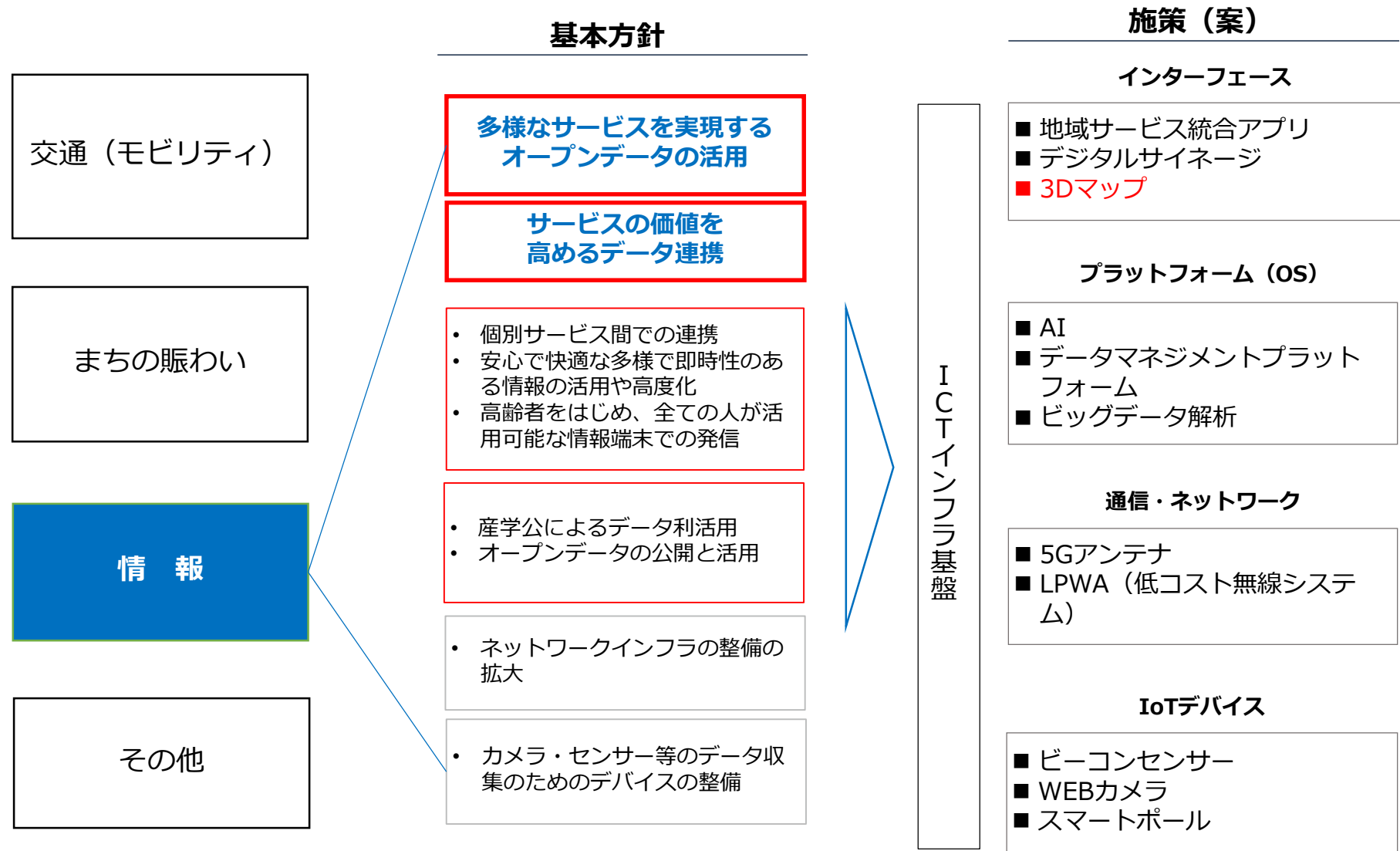
《実証概要》

- 3Dデジタルマップを構築し安心安全な歩行者ネットワークの構築の為に、**移動者の目的と移動者の特性に合わせた移動ルート案内、公共交通・設備の状況を同プラットフォームで可視化し・確認できるサービスの価値実証**を行う
- 実証サービス機能案
 - 移動者特性を踏まえた、移動ルートの3D可視化
 - 最短ルート：商業施設内等も活用した最短ルート案内
 - バリアフリールート：エレベーターを利用した公共交通・スポットへのルート案内
 - 公共交通・公共スポットの待ち時間をマップ上へ可視化
 - バス時刻表やタクシーの待機状況可視化表示
 - 公共交通（多目的トイレ等）の利用状況可視化表示
- 提供エリア
 - 南大沢駅周辺（駅を中心とした大型商業施設＋公共交通ロータリー）

※施設内再現は公共交通への移動ルート表示に必要な箇所の再現

2. 先端技術の実装化に向けて (参考) 情報に関する基本方針・施策

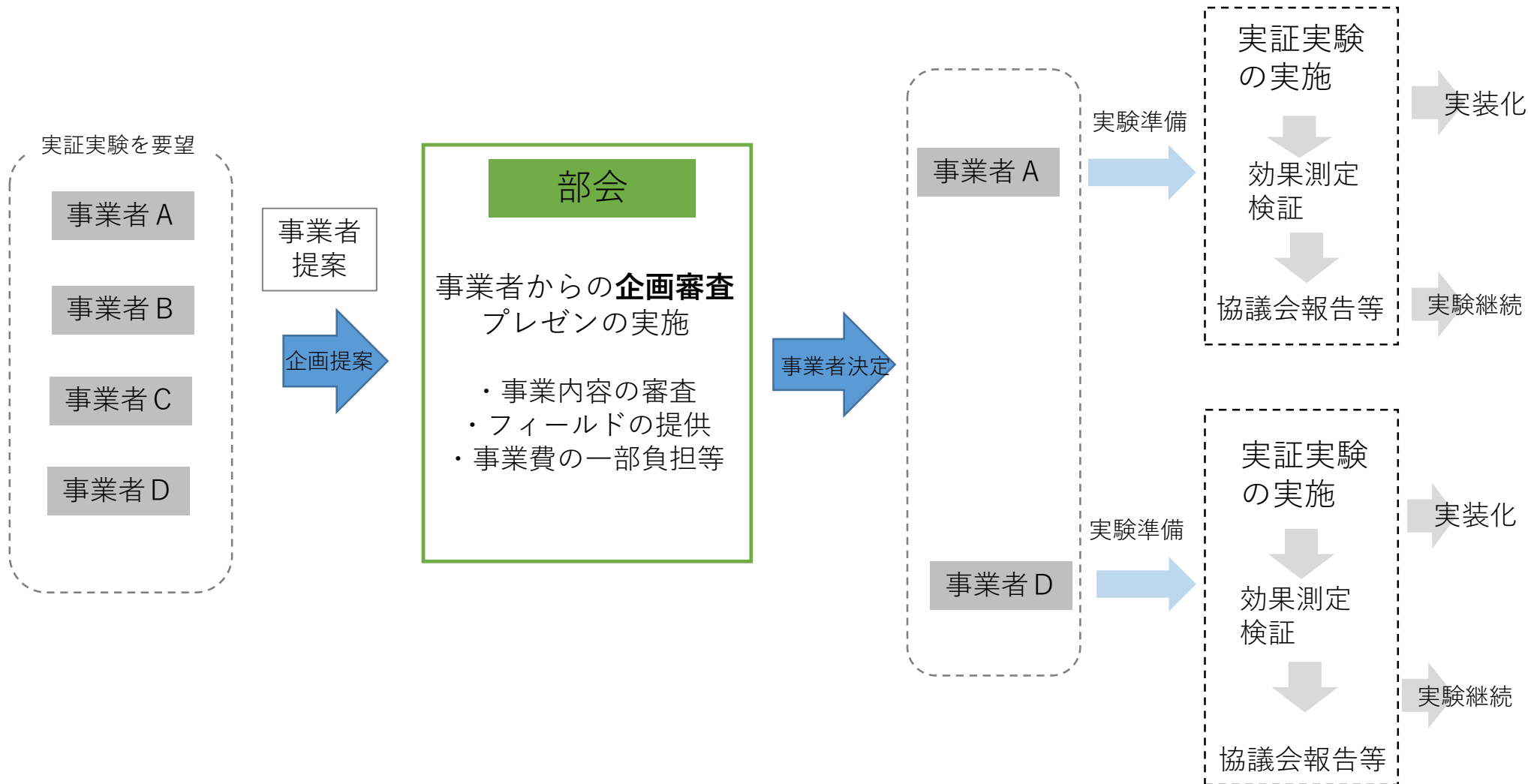
(参考) 情報に関する基本方針・施策



※本内容は、現時点における技術的に可能性のある施策を網羅したものであり、今後南大沢エリアとしての実施可否・優先順位を十分に議論したうえで、具体的な実施内容・時期の検討を行う。

当地区で新たに検討している事業者提案の取扱い（案）

- 当地区で新たに実証実験を検討している事業者を協議会で募集
- 応募事業者からの提案を審査（3部会で審査）
- 選定された「事業予定者」は、実装化に向けて準備し、協議会委員等は可能な限りフィールドを提供



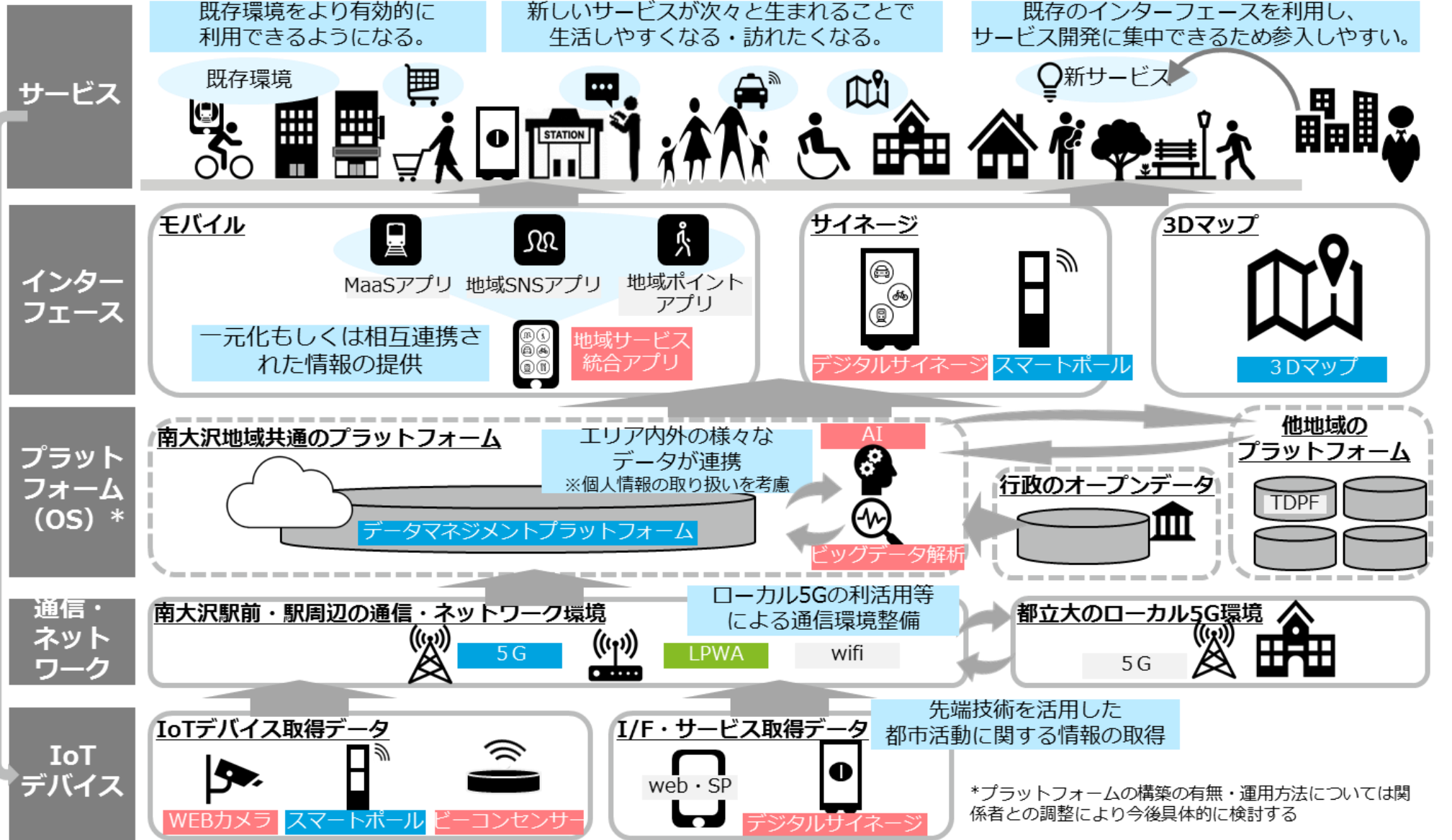
3. ICTインフラの整備に向けて ①実現イメージ

必要なオープンデータやデータプラットフォームの構築

【情報・その他部会】

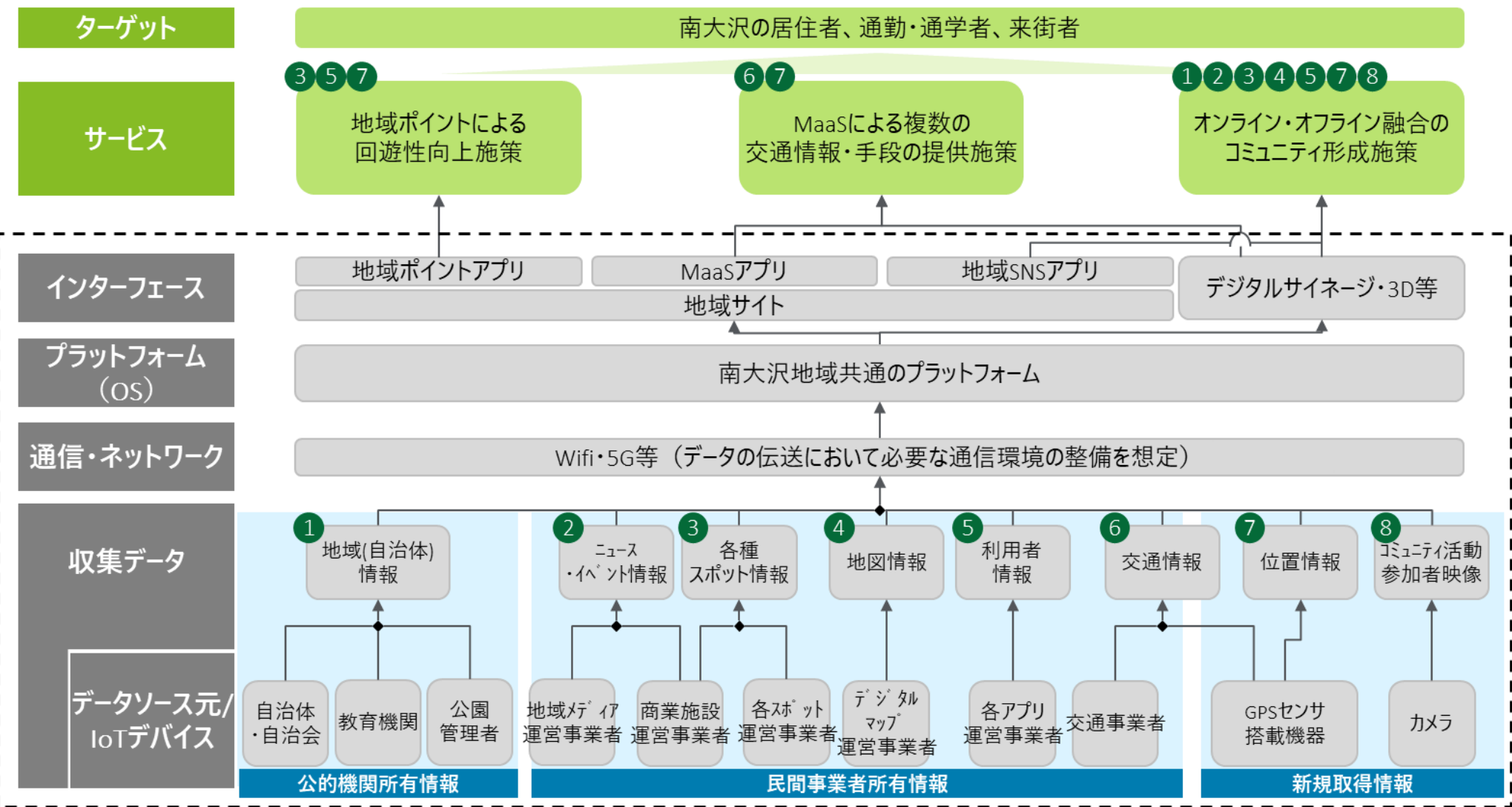
凡例

短期 (赤色) 中期 (青色) 長期 (緑色)



*プラットフォームの構築の有無・運用方法については関係者との調整により今後具体的に検討する

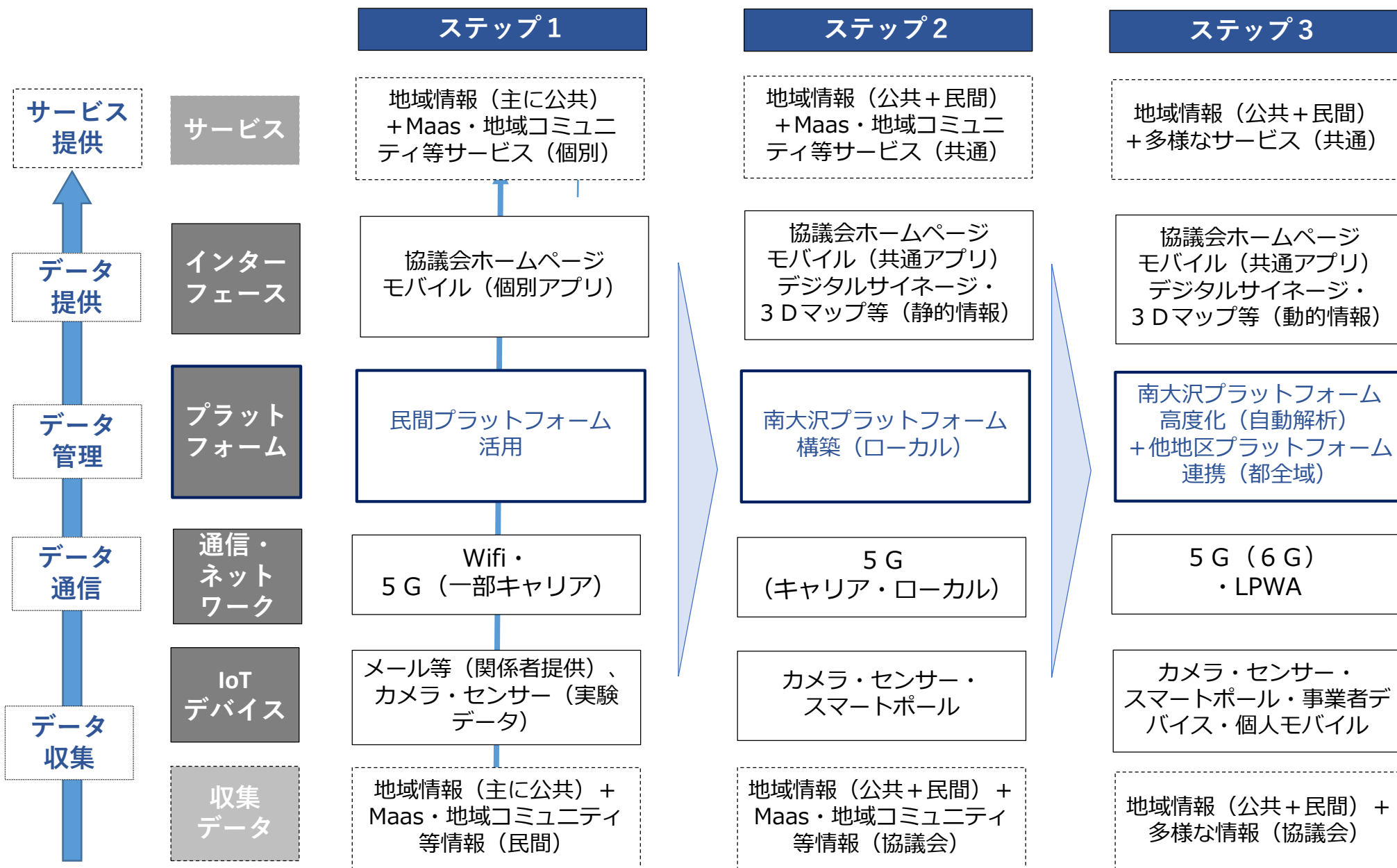
(参考) ICTインフラの検討・整備の方向性



※ICTインフラの各サービスにおけるデータ的具体内容・形式、収集・管理方法、実施主体等は、今後具体的に検討・調整。実施可能なサービス・機能から順次実装化

3. ICTインフラの整備に向けて ②検討・整備の進め方

ICTインフラの検討・整備の進め方 ※R 4 は検討、R 5 から整備開始



4. 認知度向上に向けた対策 ①概要（オープンハウス・イベント）

スマートシティの各取組の参加を増やすための広報活動

■概要（予定）

- 期間：令和4年11月下旬（1週間程度）
- 内容：南大沢スマートシティの取組紹介、実施計画への意見募集、実証実験のP R・参加呼びかけ等 ※他のイベントとの連携も検討

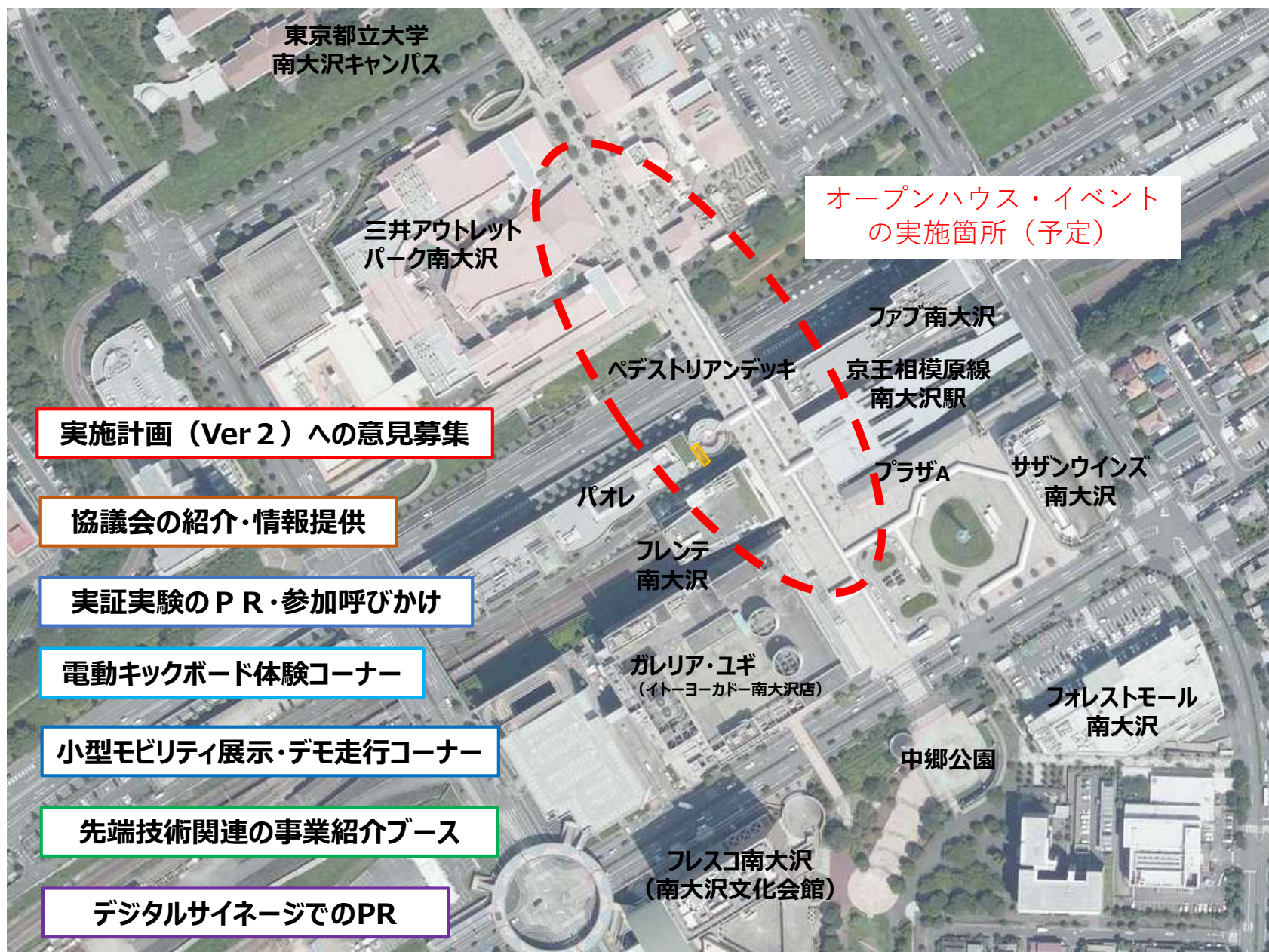
■具体内容（案） ※今後の関係者との調整において変更可能性あり

- 南大沢スマートシティ実施計画（Ver2）への意見募集〈協議会〉
- 南大沢スマートシティ協議会の紹介（パネル展示・動画放映等）〈協議会〉
- 実証実験のP R・参加呼びかけ〈協議会〉
- 電動キックボードのデモ運行・試乗〈事業者〉
- 小型モビリティ展示・デモ走行〈事業者〉
- 先端技術関連の事業紹介ブース〈事業者〉
- デジタルサイネージでのP R（施設管理者等）

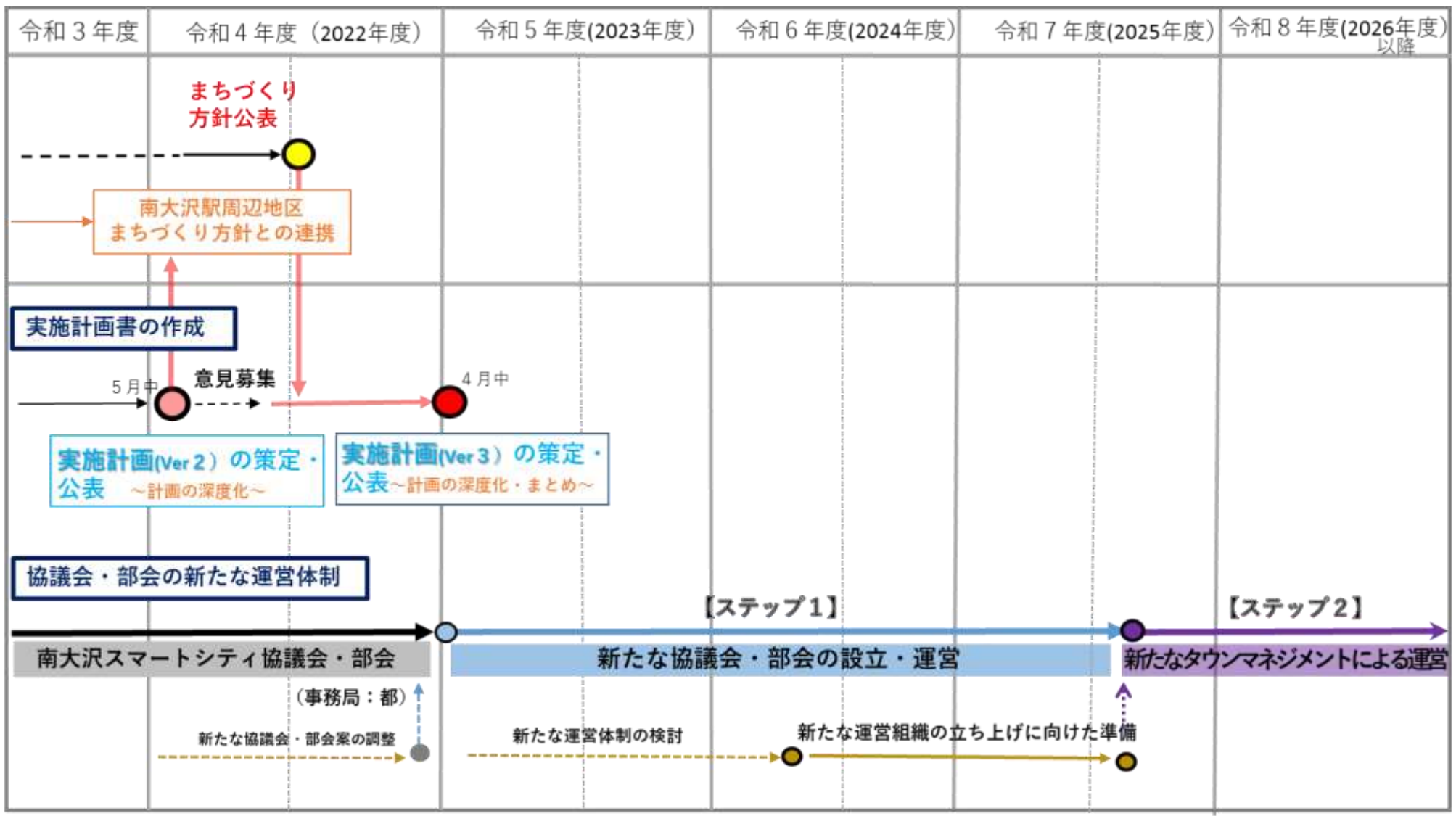
4. 認知度向上に向けた対策 ②実施箇所

オープンハウス・イベントの実施箇所（予定）

※今後の関係者との調整において変更可能性あり



運営体制づくりのロードマップ（予定）

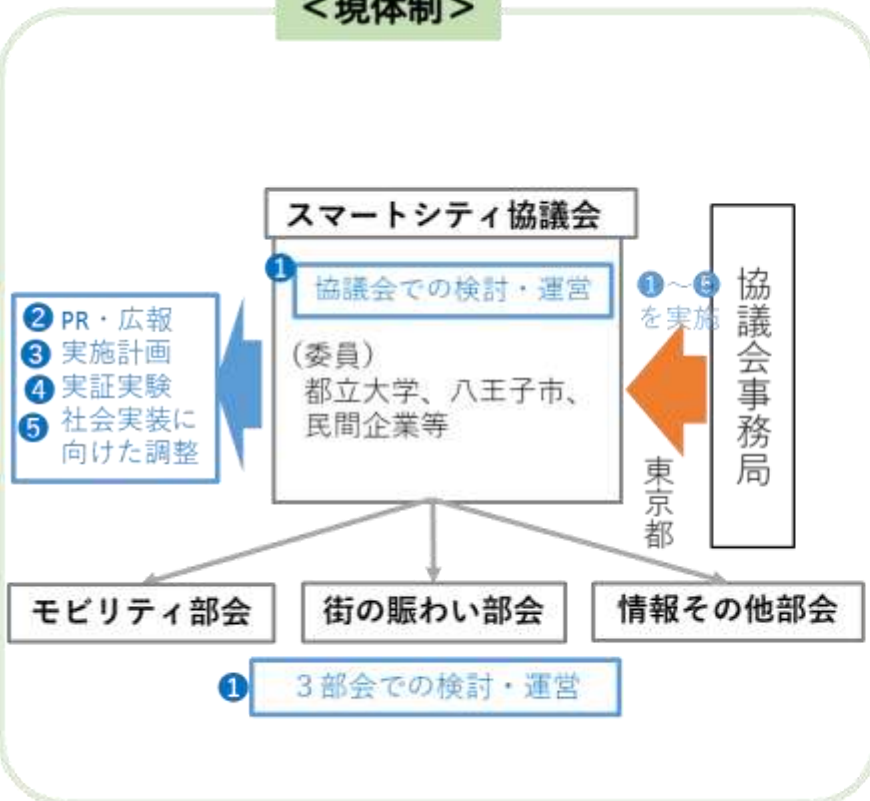


5. R5年度以降の新たな運営体制づくり ②運営体制（案）

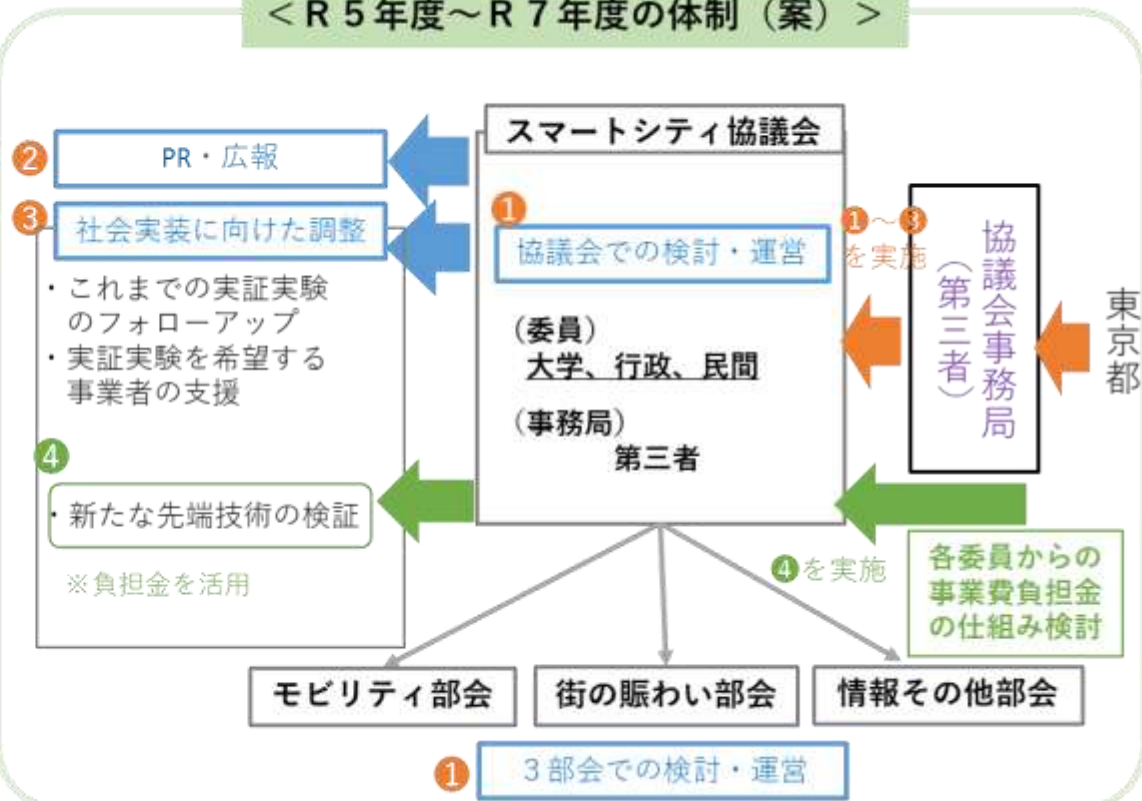
継続的に先端技術を取り入れていく体制づくり（案）

- これまで2年間、都が中心となり、協議会の運営、実施計画のとりまとめ、実証実験等を行ってきており、一定の成果も出てきている。
- また、今年度は、これまで3年間の検討等を取りまとめた、実施計画の最終とりまとめを行うことになっており、令和5年度以降は、この実施計画の内容を社会実装することが求められている。
- このため、社会実装を実現し易い体制にシフトしていく必要があるため、これまでの体制から産学公がそれぞれの役割を果たす体制に見直していく。
- 令和7年度以降の都市地活用事業を念頭に置いた体制づくりも並行して検討していく。

<現体制>



<R5年度～R7年度の体制（案）>



6. 実施計画（Ver 2）への意見（パブコメ）

南大沢スマートシティ実施計画（Ver 2）への意見

- **公表時期**： 令和4年5月31日～令和4年7月15日（約1.5カ月）
- **公表方法**： 都（都市整備局 協議会）ホームページに掲載 ※都プレス発表・都Twitter、市広報誌で案内
- **意見件数**： 6人 ※複数意見あり

<実施計画（Ver 2）への主な意見> ※意見は今年度策定する実施計画（Ver 3）に反映

(1) 計画全般	<ul style="list-style-type: none"> ○将来的な実現可能性を踏まえた選択と集中が必要 ○地域の課題解決や生活レベル向上等の具体的な成果指標が必要 ○地域の強み・可能性や住民の想念・行動分析を踏まえた新たな発想が必要
(2) モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ○移動の自由度を向上させるライドシェアの導入が必要 ○遊歩道への自動運転電気自動車の導入による歩行困難者への外出・移動支援が必要
(3) まちの賑わい	<ul style="list-style-type: none"> ○希望する店舗は、キャッシュレス決済への対応が必要 ○高齢者のための複合型コミュニティ施設が必要
(4) エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ○都立大学を中核に「再生可能エネルギータウン」の実現、再エネ開発・利用で世界有数の大学としてスタートアップ創出の場 ○カーボンニュートラルの実現に向けて、車両の電動化のほか、火力発電や原発も必要
(5) 先端技術	<ul style="list-style-type: none"> ○3D点群データを活用した坂道・階段の無いルート案内、建物内の3Dデータの活用を期待 ○ロボットやカメラ等を活用した先端介護サービスの提供が必要 ○行政手続きのDX化として、ワンストップ納税サービスの提供が必要
(6) その他	<ul style="list-style-type: none"> ○リニア新駅予定地（橋本駅）との関連で、将来的なMICE機能の整備も必要 ○わかりやすい表記・説明が必要